

豪雨災害への対応を通じた地域のレジリエンスの向上

池邊 淑子（大分県 福祉保健部 健康政策・感染症対策課）

大分県の西部に位置する日田市では、豪雨災害への対応を通じて、地域の保健医療福祉関係者の災害対応力が向上していると評価している。その背景として、平時からの市と保健所の強固な連携体制や、各種事業を実施する中で構築された地元の保健医療福祉関係者の良好な関係性が、対応力向上に大きく影響していると分析している。

保健所は平時の事業の中で、企画力や調整力が求められるが、日々の業務を通じた地域のステークホルダーとの関係構築は、災害時の健康危機管理においても、地域全体の対応力向上にも大きく寄与すると考えられる。

平成 29 年 7 月 九州北部豪雨災害

- 豪雨による土砂崩れや河川氾濫が多発し、複数の避難所が設置
- 山腹崩壊による土砂ダム形成のリスクによる緊急避難指示とその上流集落の孤立
- 保健所として市保健師と連携した避難所巡回の開始
- 大分県内の保健医療支援チーム(DMAT, DPAT, JRAT, 災害支援ナース等)の派遣要請
- 災害対応と平時業務の役割分担, 県内 DHEAT の投入による災害モードへの切り替え
- 地域医師会への協力要請 内服薬の緊急追加処方, 避難者の健康管理のための避難所巡回
- 平時の事業を通じた関係構築により医師会・薬剤師会をはじめ医療関係者が協力的
- 地域の医師の巡回が被災者の安心感を高めた
- 外部の支援チームの撤退を見据えた地元医療資源への引継ぎ
- 被災者支援を段階的に終了させる工夫 外部チーム撤退後の地元医師会による巡回の継続
- 核となったのは市保健師と保健所保健師の強い使命感と連帯感

令和2年 7 月 豪雨災害

- コロナ禍にもかかわらず、災害対応の定例会議を開催
- 市・保健所・医師会・災害拠点病院・薬剤師会・ケアマネ協議会等の関係者の参画
- 外部支援は不要と判断し、地域の資源のみで対応
- 市保健師の対応スキルが向上

令和 5 年 豪雨災害

- 避難者は多かったが、医療に関しての外部支援は不要と判断
- 市保健師の巡回によるアセスメント結果を WEB 会議で共有
- 医師会等からの支援が必要な場合は個別に対応